

磐城時報

福島縣石城郡平町番屋町十四
印刷部 印刷人 阿田 弘成
福島縣石城郡平町番屋町十四
印刷部 印刷人 阿田 弘成
福島縣石城郡平町番屋町十四
印刷部 印刷人 阿田 弘成

あす磐中を巣立つ 卒業生百六十二名

學業操行優良者六名 大多數は上級校志望

磐城中學校第二十九回卒業式は、七日午前十時舉行するが、本年度卒業生は百六十二名で卒業後直ちに實業につく三十二名の外は大多數上級學校を志望してゐる。卒業生氏名左の如し。

今田碧、石井誠一、猪野範明、猪狩吉直、市川善一、市毛俊明、飯尾梅雄、惠原猪和男、箱崎行雄、箱崎安、箱崎基義、箱崎精史、橋本剛、芳賀三男、長谷川壽一、畑基、西山總一、新田友四郎、西尾邦明、西牧繁藏、新妻英高、新妻榮、星山政吉、越野實、外山孝一、東條光雄、千葉茂、沼田喜信、大和田一美、大和田克己、大和田政明、大竹榮一、岡部卓司、岡部純宜、大角巖、折笠彰、小澤昌久、大越一二三、面川勝雄、大津賀幸平、渡邊金一郎、加藤邦廣、柏原英夫、金子徳太郎、上遠野信夫、金成直憲、籠倉五郎、菅野一、吉田武男、吉田愛司、吉田達男、吉田致、吉澤沖次郎、吉川善一、高秋亨、高秋藤一、高秋精玄、高橋廣、高橋忠、高木英、高木十郎、高久孝、高杉清壽、竹元晃教、大門俊雄、儀欣次、根本三右衛門、根本三子雄、根本榮、中野福藏、中田三郎、永山長久、中島一、高橋廣、菅野一、

會田清明、鈴木具、佐川彦兵衛、菅野一、
▲在學五ヶ年間組長勤績(一名)
菅野一
一、在學五ヶ年間勤生(九名)
重田景治、小林行雄、新妻英高、外山孝一、芳賀三男、權瓶貞男、平澤藤次、猪野範明、永山長久
▲本學年間勤生(六名)
佐川彦兵衛、折笠彰、關原幸小澤昌久、會田清明、蓋正

無期延期

平驛舎の改築工事は三月々々着手の豫定で去月廿五日東京本局四日大浦小學校並に平第一校を入札を行つたところ突然其政視察した。

小名濱で 學校増築

小名濱小學校は児童の増加に伴ひ校舎の狹隘を感じ工費八萬餘圓を以て校舎二十四級級の増築を計劃し此の程町會で決議した。

元北川辯護士事務員 小刀で咽喉を切る

平町田町四十五番地居住元福島市辯護士北川次男氏の出張事務所員石田裕(四一)は五日午後七時二十分居住座敷内に於て鋭利な小刀を持つて頸部動脈を切断した上腹部も切つて鮮血にまみれて苦しんでゐる妻が発見附近の者が駆けつけ手當したが、忽ち絶命した。平署から佐藤部長出張検死したが、同人は一昨年以來神經衰弱に陥り北川辯護士の事務員を解かれ、醫師にも見離されたのを苦にしてこの始末に及んだものである。

看護婦試験

東北帝國大學附屬病院看護婦採用試験は、六日午前十時から平町役場に於て小室留雄氏出張の上行つた。

綴堀坂國道で 自動車少女を轢く

平町二丁目子自動車部湯本、道進行中同字塚田ハッパ(一平岡兼合自動車第七三號を運轉○)といふ少女を轢き倒し肩關節を折り全治一ヶ月の重傷を負つた。午後三時頃内郷村大字綴堀坂國道はせしたので平署で取調中である。

早害に 負けぬ稲種

農試場で獎勵
毎年早越のため水稻の收穫皆無となる地方少からず損害も亦莫大なものがあるが石城地方では小名濱、泉方面の六百歩歩が水利の便悪く年々減收を見てゐる。そこで農事試験場石城分場では四年度新事業として前記兩町村の中間に早越時の稲作試験地を設

婦人の腰巻をぬすむ 變態性欲者捕はる

植田町地方に於て最近婦人の腰巻が頻々として盗まれるので植田署で捜索中の處二日午後二時頃錦村地内を徘徊してゐる舉動不審の男を取押へて調べた處腰巻二枚を所持してゐたので嚴重取調べた結果同人は茨城縣平磯町大工職磯崎源七(二八)といふ變態性欲者と判明し一月以來二十枚の腰巻を盗んだ事を自白した。

婦人農事講習

高久村農會主催婦人農事講習會は七日から九日迄三日間高久村大字下高久地蔵院に於て開催する筈で講師科目左の如し。
▲第一日養蠶(成田技手)漬物(川原田技手)▲第二日家事作法▲第三日蔬菜園藝(小嶋技手)

小波氏講演

十一日平町で
巖谷小波氏の講演會は昨報の如く十一日午後六時半から平町元石城郡役所に於て平町教育會その他各種團體が主催となつて開催する事に決定した。

活動寫眞會

仙臺陸軍教導學校では現地演習の爲め將校十七名が七日石城郡に來る筈であるが、これを機會とし石城郡在郷軍人分會では七日午後七時から聚樂館に軍事思想宣傳の爲め活動寫眞會を催し無料公開することになつた。

洞穴を居住とする 窃盜少年逮捕

高久村大字山口字藥師前生れ當定することとなり去る四日實地調査を行つた。試験の方法は約一町歩の水田を選定し確實なる昨年十月五日夜湯本町パン屋九頭見清次郎方店頭に忍び入り現金三圓五十錢、同夜三時頃菓子屋九頭見清一方店頭から現金二圓を窃取し本年一月八日午後二時頃入山炭礦糧食部塚本辰夫方から現金十六圓の外罐詰等を盗んだので平署で捜索中の者であつたが五日湯本町で赤津巡査に捕はれた。同人は東京市に於てスリの仲間に入り相當腕利きのもので其筋から眺まれるやうになつてからは湯本町入山炭礦の山林の洞穴中に住み夜にむたものである。

石城郡振興會

平窪校で講演
竹生島、富士大波、海士、藤戸、船辨慶、嵐山、忠度、雲雀山、百萬、草紙洗小町、攝待、鞍馬天狗、番外声刈

錦信用認可申請

錦

同僚の時計を盗む

埼玉縣北足立郡大久保村生れ當
時湯本町字傾城柳沼忠一方居住
入山炭礦坑夫神田定雄(二二)は
去る二月九日同居人菅野盛所有
懐中時計を窃取して逃走したの
で捜索中の處五日湯本町入山四
坑に於て佐藤巡査に捕はれた。

マラリヤ病に對する追憶

増田重(寄)
ブルジョア・サンパウロから
(二)

▲私の家庭の状態
大正十年一月下旬隣家の娘マ
ラリヤに罹り妻君が泣いて來
たとき私はゾッと「ヤッ
て来たな」と胸にこたへ氣持
が悪くなつて來た事を今だに
覚えてゐるがそれがマラリヤ
と戦ふ序幕であつた。二月私
は手足がだるくなり指先がチ
リチリするやうな感じがしは
じめた。これがマラリヤだ
なと思つてをる中に三月の初
め發熱二日間床に就き次いで
起きたが何となく氣持悪く食
慾進まず働くのにヒドク疲労
を感じた。それから二週間位
ひ働いてゐると又前同様に
かされ次いで子供や妻も發熱
入り替りたぢかばかりでんぐ
床に就くといふ有様で親子諸
共カマに枕を並べて呻吟した
ことも二度や三度ではなく實
際其時は心細かつた。病狀は
皆同一ではなく

○私はサムケを感じないで發
熱し最初の間は二三日就床す
る位で起されたが回数を重ね
ねるにつれて二週間も床に就
き發熱も長く高く自覺を失ふ
やうになり二三年過ぎてから
マラリヤの發病期間は引續い
て頭痛し加ふるに大正十一年

四月頃より慢性下痢を併發し
之が一年半も續いたので大い
に困却したが腹部にシコリは
出來なかつた。
○妻は必ずサムケを催し床も
ぬける程ガタ／＼ふるひが來
たがそれは二十分位でやみ次
いで發熱、時々アゲて來るこ
ともあり一二時間後には流汗
あり其後は氣分がよくなつた
一回の發病期間は一日又は二
日位であつたが一番後まで發
病した。そしてキニイ子の服
薬は最も忠實に履行したが腹
部にシコリは出來た。
○長男と義弟とは初年度には
一回も侵されなかつたが二年
目には強ききた。發病と同時に
胸に氣分がよくなる方だつた
○次男は服薬を嫌ひ全く用ひ
なかつた、別に重くもならず
只發熱の盛んな時には胸と背
に温濕布を施した。三男も同
様服薬しなかつたが經過はよ
く其れが何のためだか疑問だ

鳥御料理
よせなべ類
天井
仕出しは迅速配達致します
平町南町平館隣り
蒲燒魚榮
電話四二四番

ハガキ集
(投書歓迎)
▲某活動寫眞常設館は不良女
の眞窟です。男が眞面目な
顔をして見て居ると女が男の
手をにぎる。だから全く外聞
が悪い。女はたしか百姓の
女らしい。いやに手がシヤ
チコワイから、お巡さんよ
少し目を光らせて下さい。
(一丁目のつかまつた男)

進級と入學に 學生カバン 學生ボーン

女學生用手提靴
商業學校指定の
特製手提げ靴
平町四丁目
ツルヤ商店
電話百四十番

耳鼻咽喉科専門

平町仲田町七一
移新築
場所合津醫院
電話五九五番

外科専門

診療科目
花柳病科 一般科
内臓科 外科
診察時間(午前八時より午後九時まで)
但し急患は此の限にあらす
平町田町大通り(電話四三六番)
安齋外科醫院
入院隨意

スポン

美味、強壯の効
著大
本舖 倉屋長命堂
錠ンピロクモヘンボツス
三價定 酒シボツス
二價定
店理代
角目丁五町平
局藥邊野山

腸胃 毒核

内科 専門
十二指 腸胃病
腸胃病 腸胃病
婦人病 淋病
皮膚病 専門
院醫科
(七〇一話電 町南平)

貸家あり

住宅向
商店向
委細面談
平町新川町
中野勇吉

吉田眼科

平町紺屋町
電話六八番

生産者より需要者へ

この値段でいかう!!!
白米一升二八錢、醬油一升四八錢、
清酒一升八〇錢、木炭雜丸正味四貫目
味噌一貫目五八錢、一俵一圓
安くても品の好いのが當店の強み
例ひ一升、一合でも迅速に届けます
マルミヤ廉賣部
平驛通(八幡屋前)

春の彩り!!

装ひは三井へ
羽二重九寸博多
京御召
錦紗小紋
帯皮陳列
主婦ノ友三秀會特撰
何卒御用命ハ弊店へ
三井吳服店
平町

靴とカバンは

福山に限る
平町役場前 福山支店